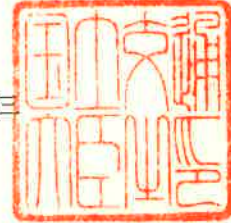


認 定 書

国住指第 2779 号
平成 19 年 4 月 10 日

株式会社佐藤林業
代表取締役 佐藤 利郎 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項(同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第 2 条第七号の二並びに同法施行令第 115 条の 2 の 2 第 1 項第一号イ、ロ及びハ(外壁(耐力壁):各 1 時間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
QF060BE-0278
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称
丸太組構法外壁
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容
別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

(1) 構造名：丸太組構法外壁

(2) 寸法

1) 壁高さ：4000 mm以下

（壁高さ〔座屈高さ〕は、建築物に作用する荷重が、外壁及びその一部分（交差部の間隔内）に加えられた場合に、ログ部材上下間で接する部分の幅（真のかかり幅）（有効幅－20 mm、または、かかり幅のうちで寸法の小さい方）〔座屈方向の寸法〕及び壁長さ〔座屈方向に対して直交方向の寸法〕に応じて、平成 13 年国土交通省告示第 1024 号（木材のめり込み及び圧縮材の座屈の許容応力度等）の圧縮材の座屈の長期許容応力度に基づく値（横圧縮応力度）を上回らないように設計する。この際のログ部材の許容応力度及び材料強度は、建築基準法施行令第 89 条、同第 95 条及び平成 12 年建設省告示第 1452 号（木材の基準強度 F_c 、 F_t 、 F_b 及び F_s を定める件）による数値から、木構造設計規準・同解説〔日本建築学会編〕に記載されている木材の繊維方向の許容応力度に、0.125 の係数を乗じて許容横圧縮応力度（全面横圧縮）に換算したものをを用いるものとする。

ただし、平成 14 年国土交通省告示第 411 号（建築基準法の規定に基づく構築物に関する件〔丸太組構法〕）に基づき、構造計算等によって構造耐力上安全であることが確かめられた場合においては、この限りではない。）

2) 交差部の間隔：壁高さの 0.3 倍以上、6000 mm以下

（ただし、平成 14 年国土交通省告示第 411 号に基づき、構造計算等によって構造耐力上安全であることが確かめられた場合においては、この限りではない。）

3) 通しボルト及びダボの配置：

通しボルト及びダボは、1000 mm間隔を基本として、平成 14 年国土交通省告示第 411 号に基づき、建築物に作用する外力に応じて、構造耐力上有効になるように必要とされる箇所設ける。

(3) 材料構成

1) 外壁構成材

①ログ部材

樹 種：スギ（気乾平均比重 0.38）又はそれ以上の比重を有する木材（JAS 又は JAS 相当品）（ベイマツ、オウシュウアカマツ、ヒノキ、カラマツ、ウェスタンレッドシーダー、イエローシーダー、フィンランドラップランドレッドパイン、スプリース、ホワイトスプリース など）

含水率：20%以下

寸 法：ログ部材の断面形状詳細図一覧による。

真のかかり幅：ログ部材の断面形状詳細図一覧による。

加工精度：±1 mm、寸法許容差：2 mm

接着加工

接着剤の種類：レゾルシノール系、フェノール系などの熱硬化性接着剤
水性高分子系イソシアネート接着剤

接着剤の塗布箇所：2 枚を幅はぎ、フィンガージョイント（長手方向）

接着剤の塗布量：260～320g/m²（適正塗布量）

2) 留付金具類

通しボルト	φ13 mm 以上
ナ ッ ト	6 角ナット、つなぎ長ナット
座 金	角座金 厚さ 6 mm □-50 mm×50 mm 以上
丸 座 金	厚さ 6 mm φ50 mm
ダ ボ	鋼製：φ 9 mm 以上 木製：小径 25 mm 以上

3) 継手加工（フィンガージョイントを除く）

①雇い実継手

木 ダ ボ スギ（気乾平均比重 0.38）又はそれ以上の比重を有する木材
継手補助金物 かすがい、ひら金物等

②本実継手

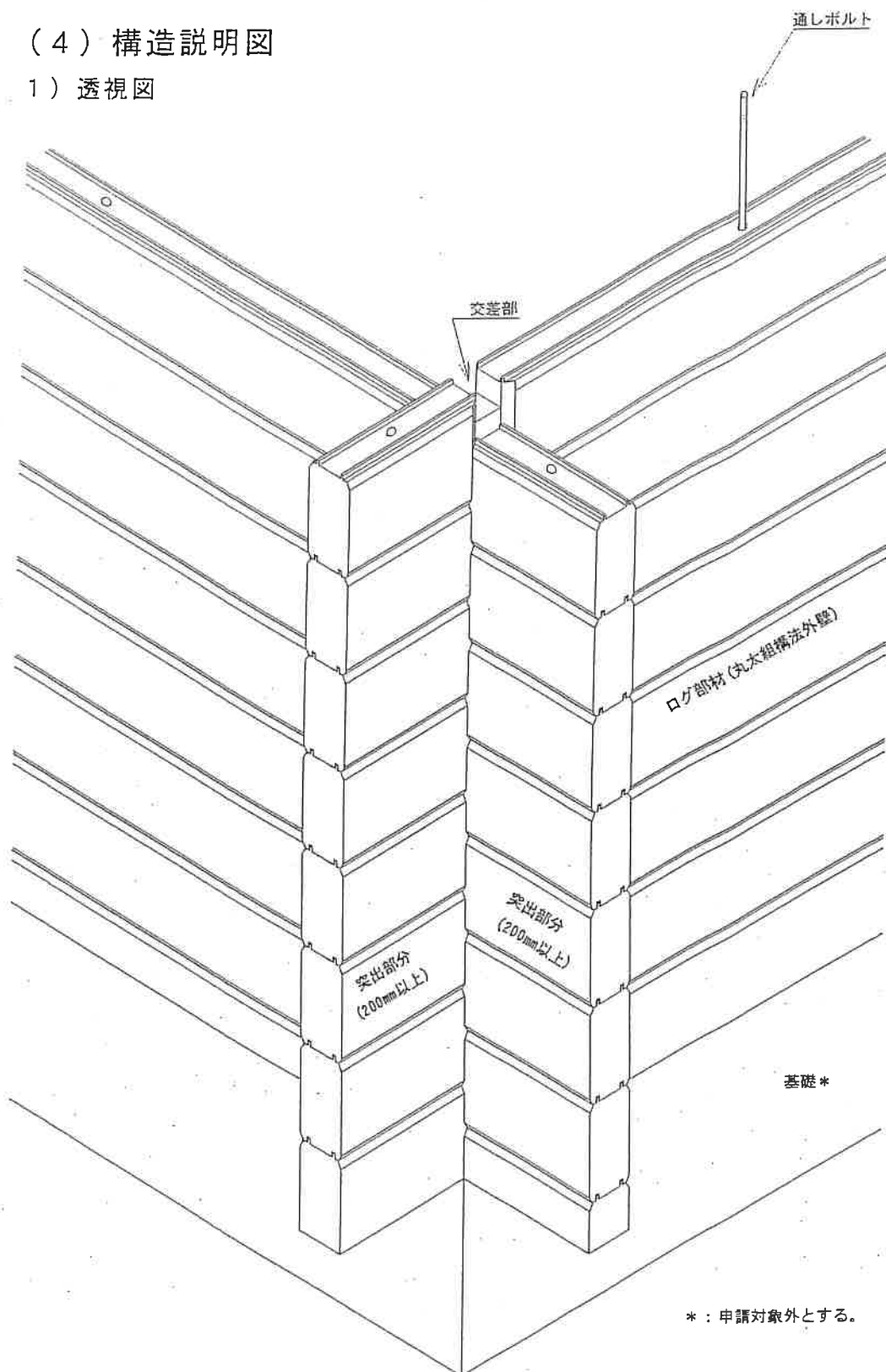
継手補助金物 かすがい、ひら金物等

③あり継手

（継手補助金物はいなくてもよい。）

(4) 構造説明図

1) 透視図



(5) 標準施工方法

1) 施工は、平成 14 年国土交通省告示第 411 号に準拠する。

通しボルト穴及びダボ穴(径 25 mm 以下又はかかり幅と各穴径との差が 87 mm 以上)は、構造計算に基づき必要とされる箇所に予め加工する。

やむを得ず継手部を設ける場合には、構造耐力上有効な補強を行った継手とする。

継手部は、通しボルト穴及びダボ穴の中央から 175 mm 以上離し、継手部を有するログ部材の相互間には、継手部を有しないログ部材が 2 段以上重なるように配置する。

2) 外壁の組立て

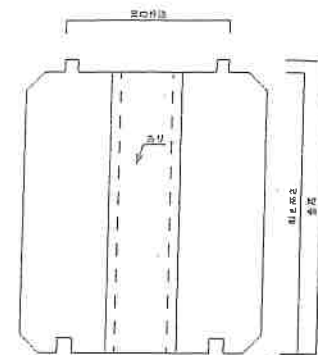
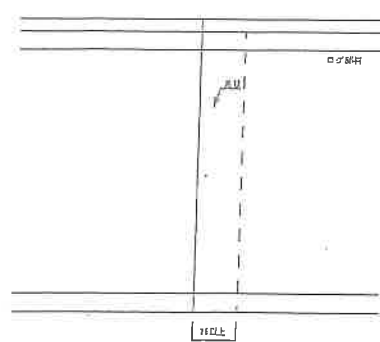
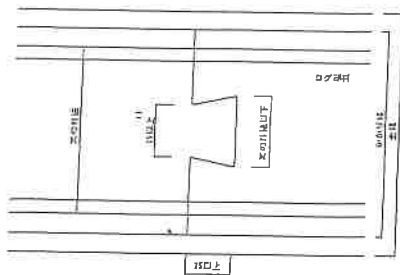
①土台に接する外壁構成材は、直交する一方は下半分を切断し、他方の外壁構成材は交差部で半分上になるように重ねる。

②通しボルト、ダボ類は予め設けられた穴に、重合せ用雇い実を用いる場合については予め設けられた溝に押入する。継手部には、相互のログ部材間に隙間ができないように注意する。

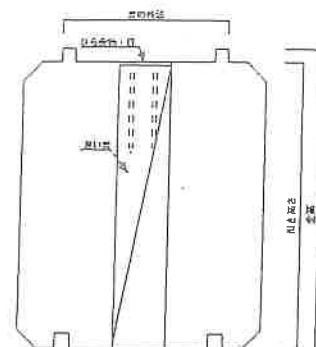
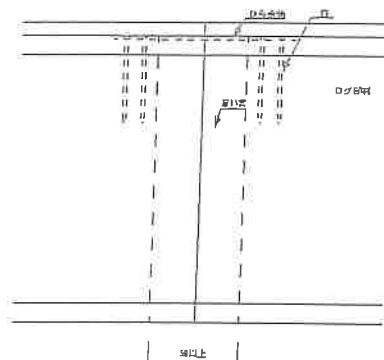
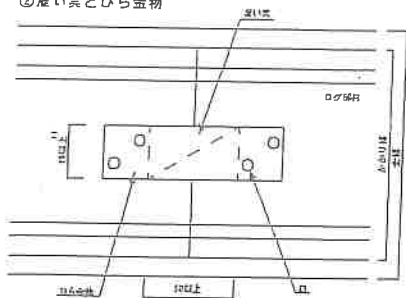
③外壁構成材が所定の高さまで積み上げた後に、通しボルトを座金、ナットで緊結する。

8) ログ部材継手例

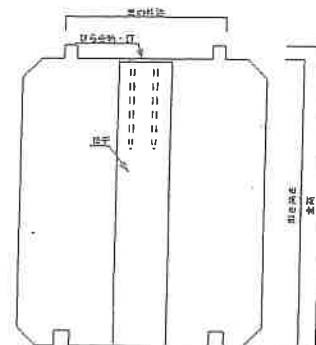
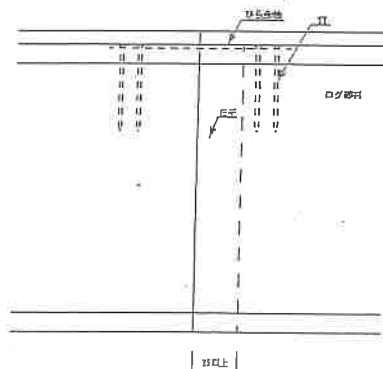
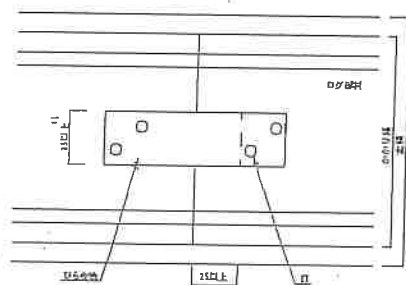
①あり継手



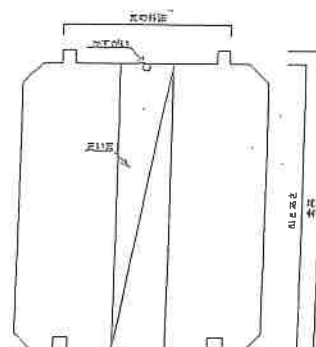
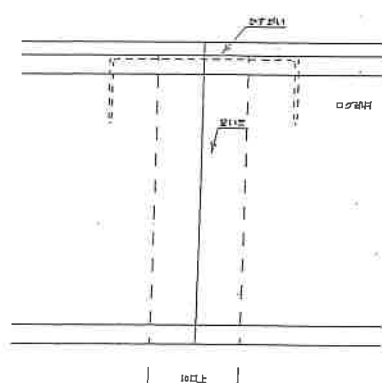
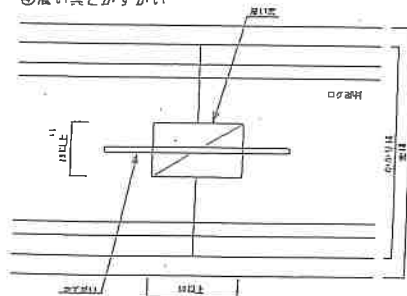
②覆い裏とひら金物



③はぞとひら金物



④覆い裏とかすがい



上面図

側面図

断面図

* 1 ; [かかり幅-接触面長さ×2] を縮えないこと。

単位 : mm

ログ部材の断面形状詳細図一覧

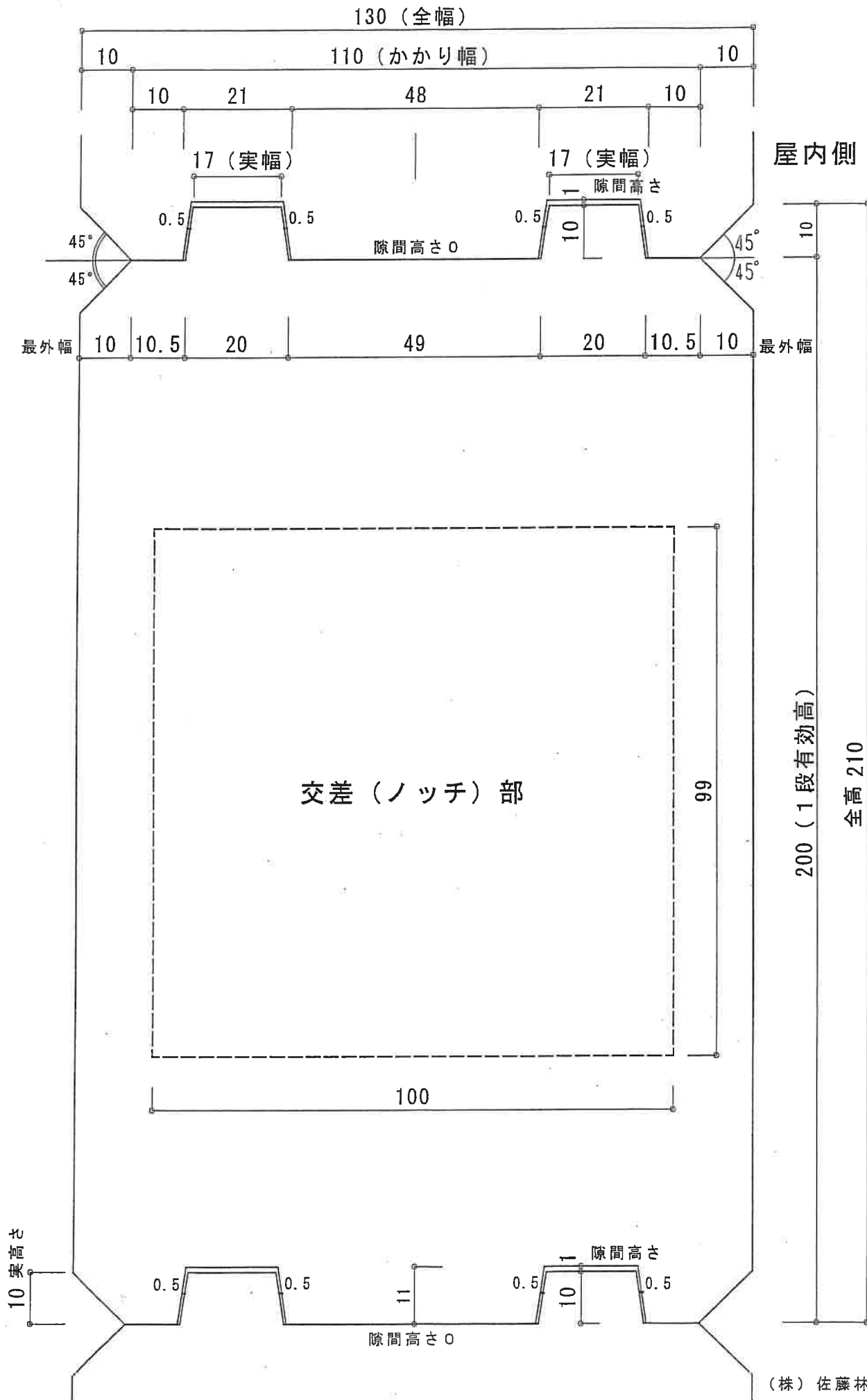
会社・団体名	記号	形状	全幅 (mm)	全高 (mm)	真のかかり幅 (mm)
株式会社佐藤林業	サトー 1	四面落とし	130	210	110
	サトー 2	三面落とし	150	175	111
	サトー 3	二面落とし	170	175	112

ログ部材断面詳細図

単位：mm

角型（四面落し）

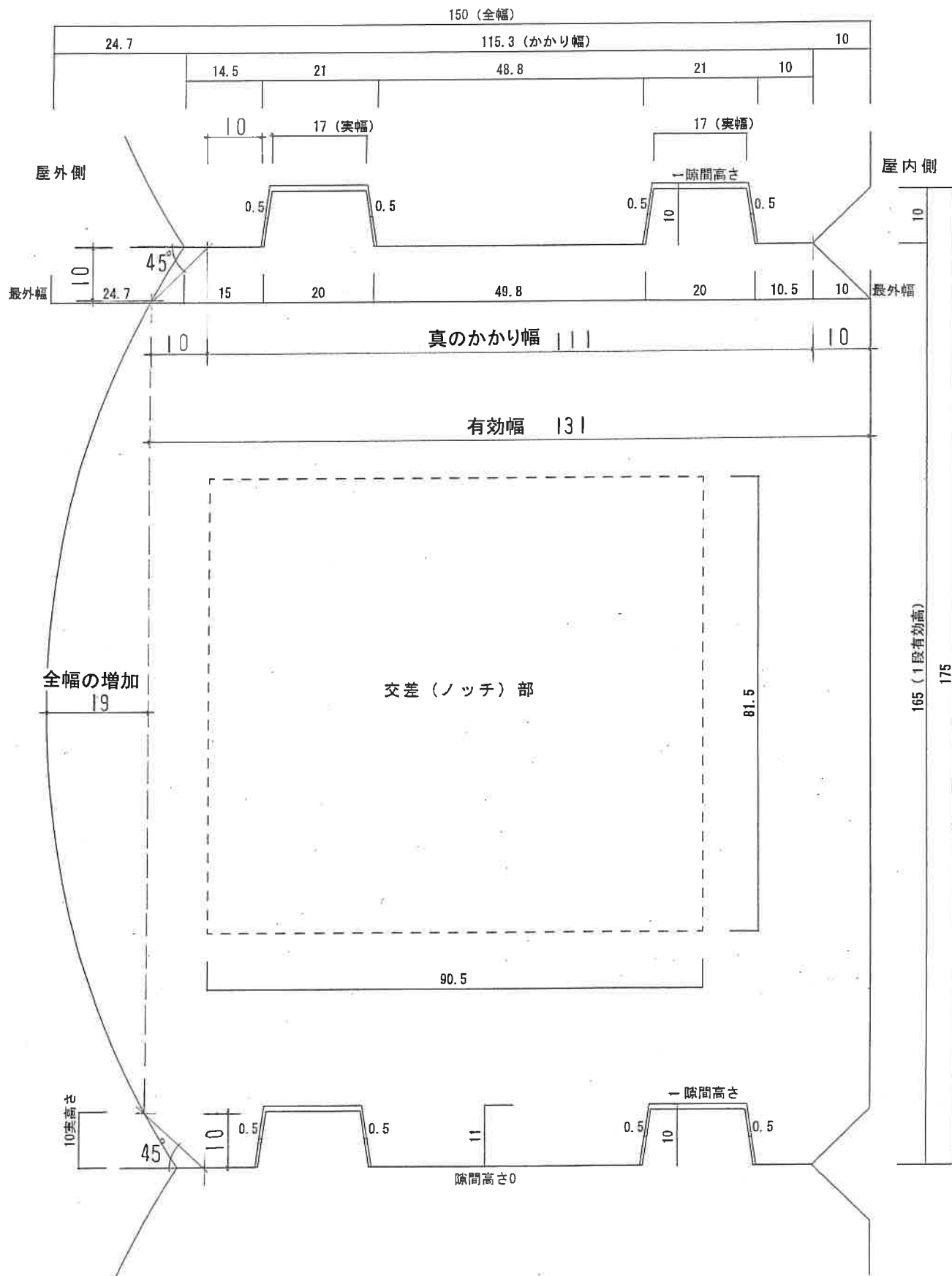
サトー



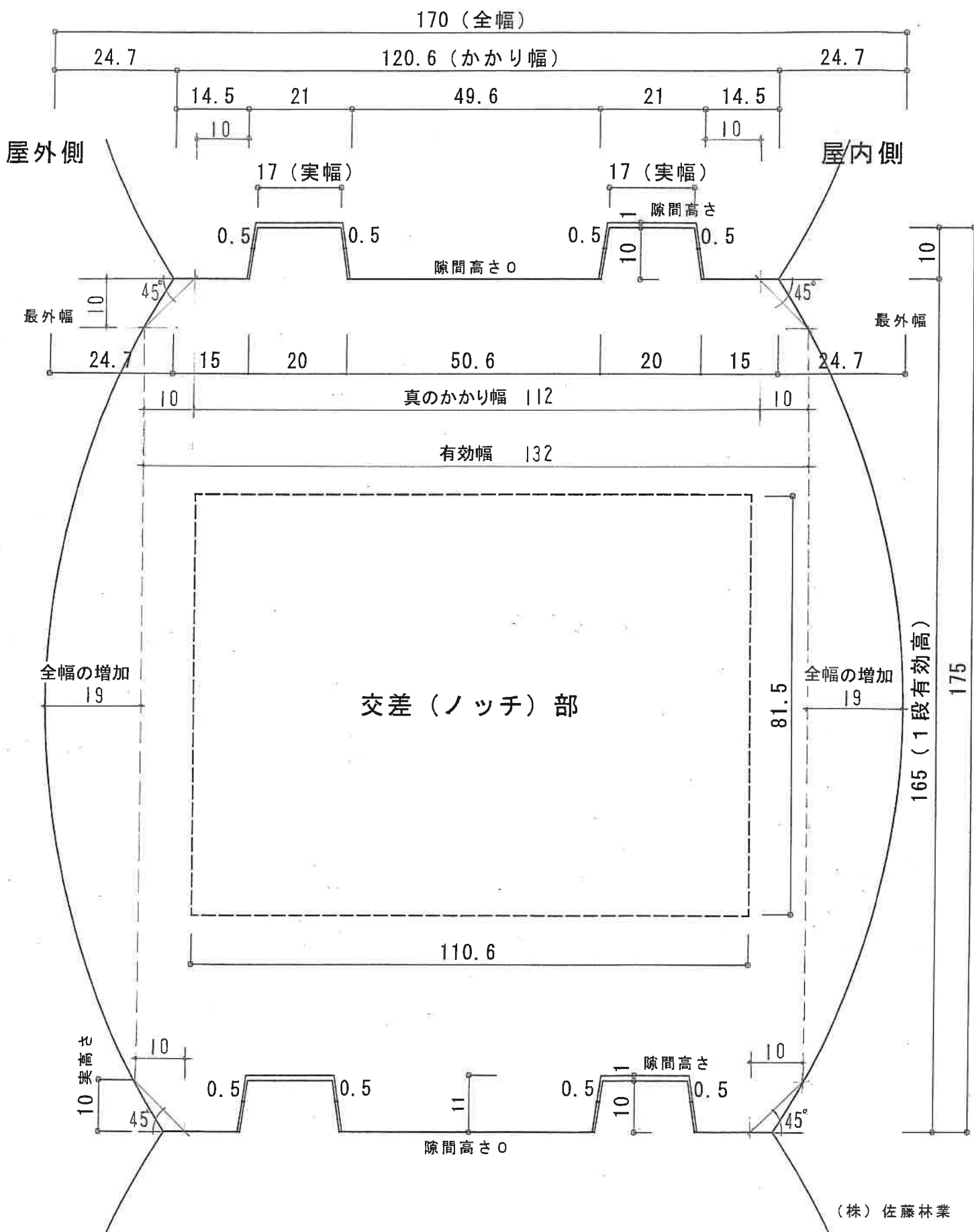
ログ部材断面詳細図

単位：mm

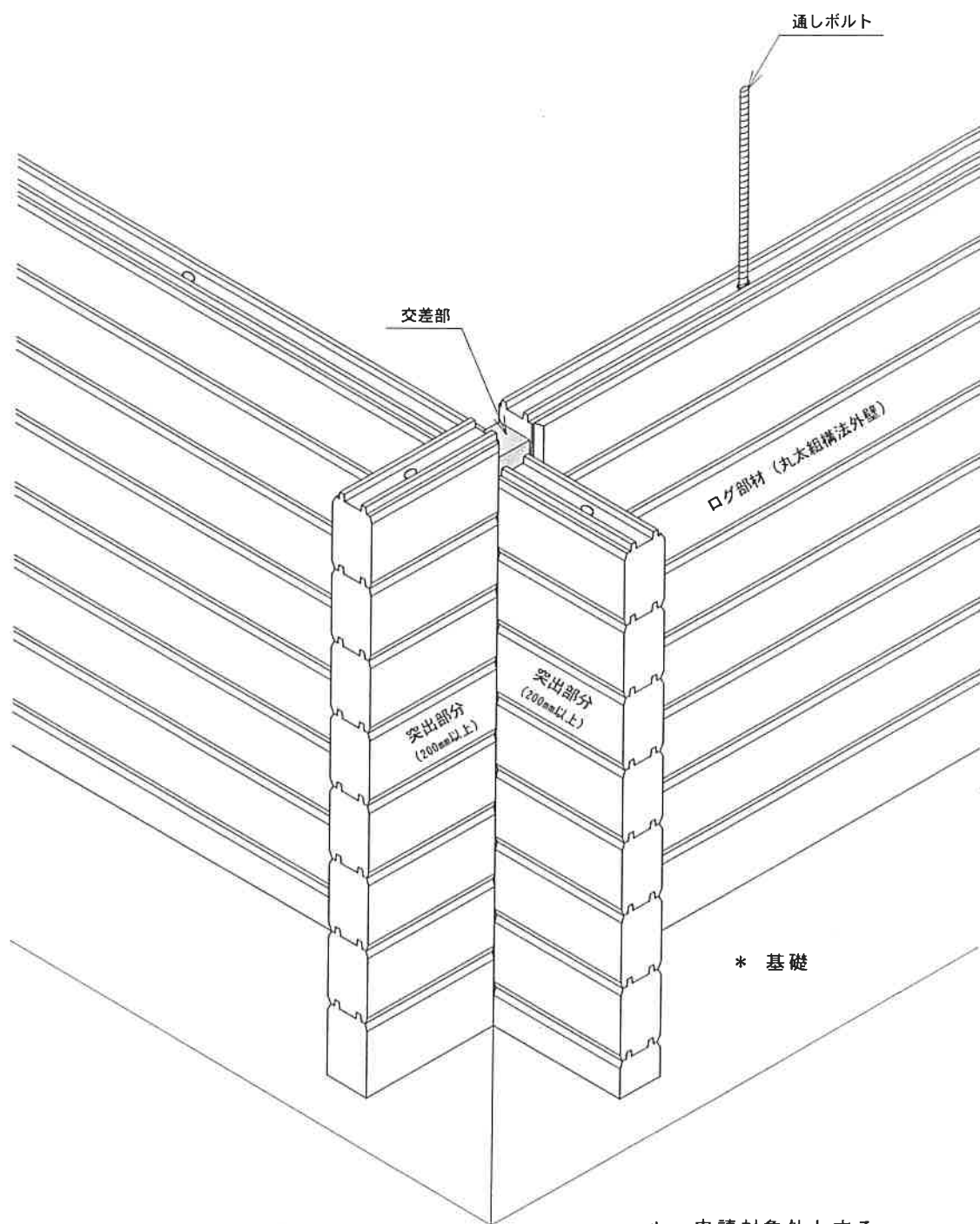
D型（三面落し）



ログ部材断面詳細図 単位：mm 楕円型（二面落し）

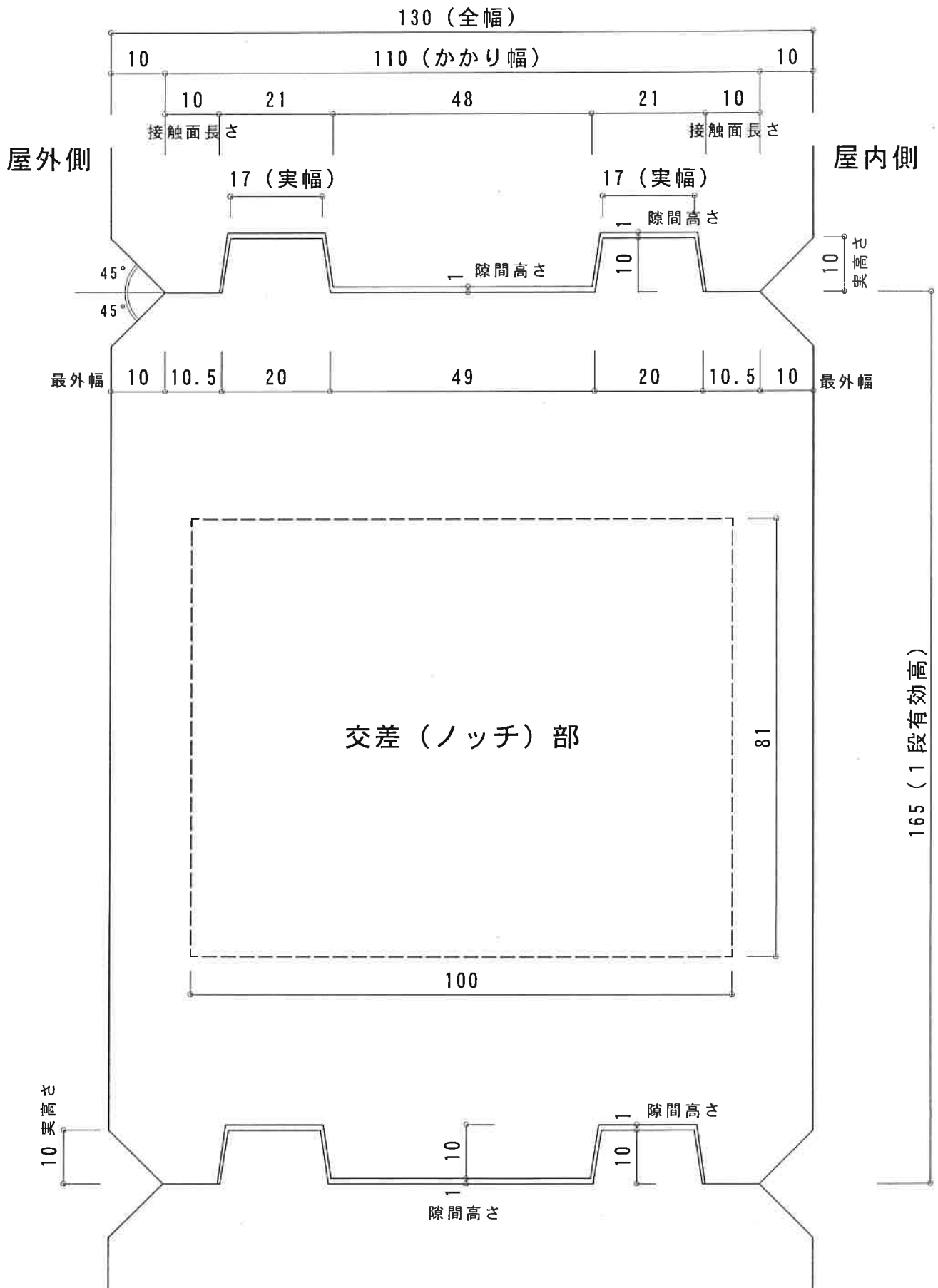


透視図

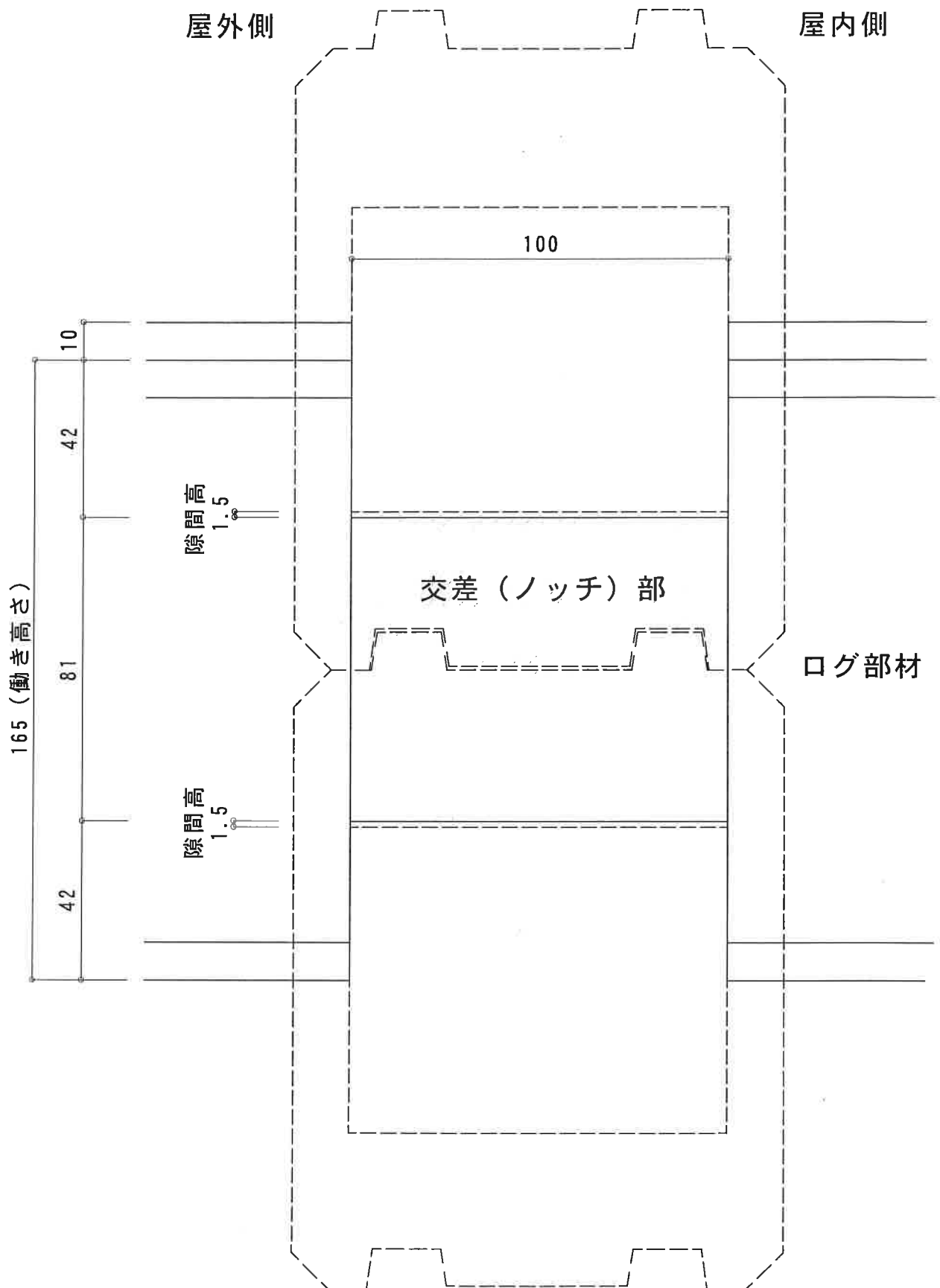


ログ部材断面詳細図

単位：mm

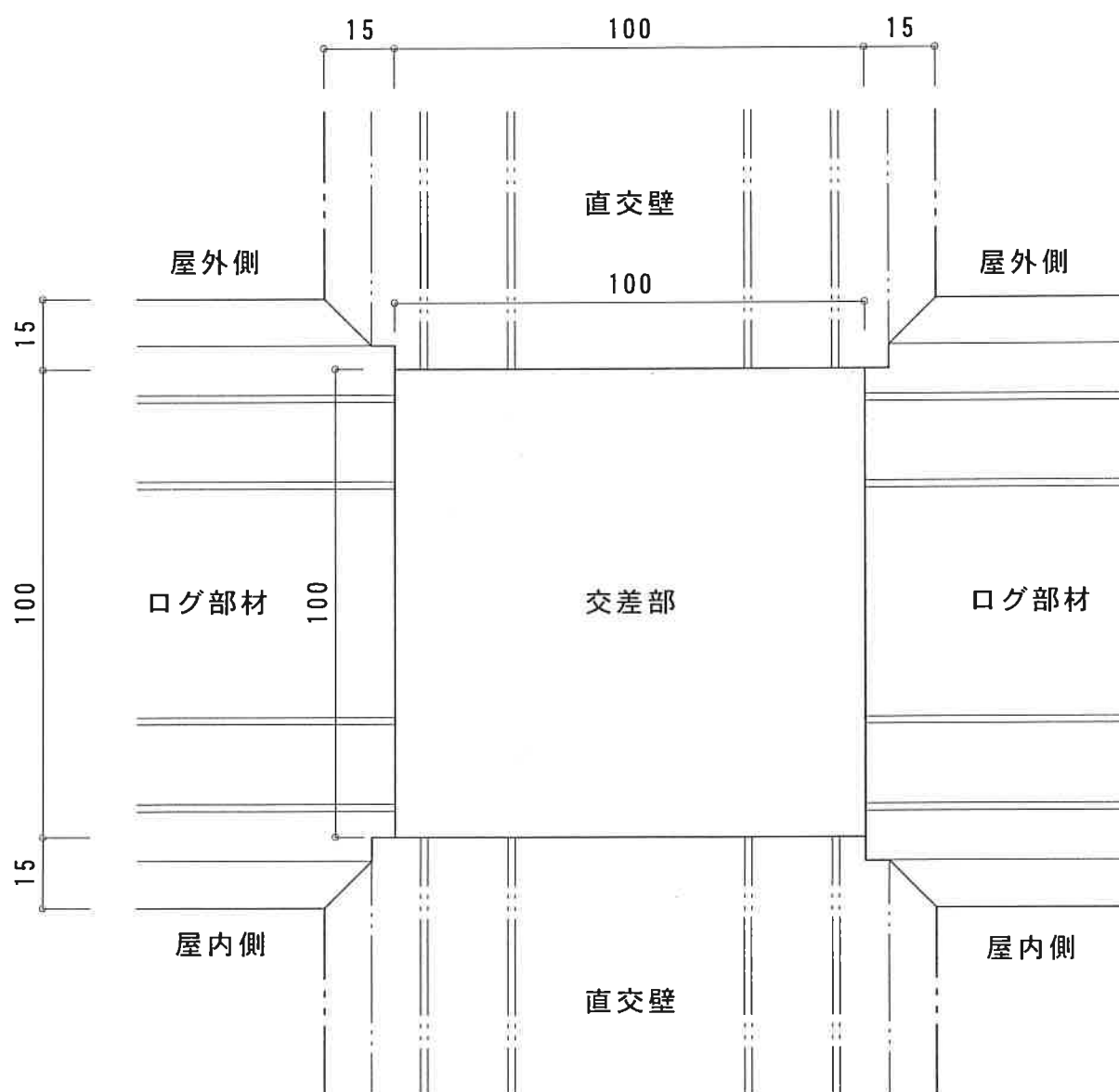


ログ部材交差部断面詳細図 単位：mm



ログ部材交差部上面図

単位：mm



單位：mm

單位：mm

Technical drawing of a roof cross-section showing a gabled roof with a central ridge. The drawing includes dimensions for the roof slope (30), the ridge height (42.5), the ridge width (30), and the total width (130). The roof is labeled "ログ部材" (Log material) and the ridge is labeled "あり継" (Ridge joint).

継手部側面図

